

大学

アーカイヴズ

全国大学史資料協議会東日本部会会報

2006. 10. 31 No.35

Eastern Japan Section, The Japanese
Association of College and University
Archives

目 次

- ・田淵正和「討論会『日本の大学アーカイヴズ』を読んで」に参加して」…………… 2
- ・倉持佳代子「討論会『日本の大学アーカイヴズ』を読んで（第2回）」に参加して」…… 3
- ・全国大学史資料協議会東日本部会2006年度総会議事録（抄）…………… 4
- ・全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録（抄）…………… 5
- ・全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録（抄）…………… 7

2006年3月22日(水)・7月13日(木) 研究会

討論会『日本の大学アーカイヴズ』を読んで

全国大学史資料協議会では、2005（平成17）年、同会編『日本の大学アーカイヴズ』（京都大学学術出版会）を刊行した。本書は日本における大学アーカイヴズを取り上げた最初のものである。本書の目的の一つは、大学アーカイヴズの現在をありのままに伝え、多くの方々の批判から将来への指針を見出すことである。また、大学の歴史に関する大学史資料とそれを管理する大学アーカイヴズの紹介も行ない読者の利用に供することも目的となっている。本書の構成は、第1部「大学アーカイヴズ論」・第2部「大学アーカイヴズのいま」・第3部「基本データ」より成る。第1部は大学アーカイヴズに関する議論を取り上げたもので、第2部では31校の大学アーカイヴズの実情を紹介し、第3部では84校にのぼるその基本情報を収めている。



東日本部会では本書の成果を有効的に活用するため、二度にわたり合評形式の研究会を行なった。研究会では、本書を手がかりにして大学史資料の収集・整理・保存・活用に関する問題や各大学の現状などを討論した。次ページ以降はその参加記である。

（会報編集担当・神奈川大学大学資料編纂室）

2006年3月22日(水) 研究会

討論会「『日本の大学アーカイヴズ』を読んで」に参加して

日本大学資料館設置準備室 田 淵 正 和

第50回の東日本部会研究会は、3月22日、明治大学大学会館8階にて開催された。今年度最後の研究会のテーマは、昨年12月に刊行されたばかりの『日本の大学アーカイヴズ』の書評会である。司会の中央大学松崎氏からも、本書はこの種としては初めての企画であり、せっかくの機会なのでわれわれ自身で読み合ってみようとの主旨が述べられた。はじめに、ナビゲーターの神奈川大学齊藤研也氏が本書の内容を紹介し、最後に同氏のコメントを付け加えた。この後、本書の編集委員長でもある京都大学西山氏から、大学アーカイヴズの定義付けについて検討してほしいということが発言されたが、「何が」大学アーカイヴズであろうか、ということが中心となった。

大学アーカイヴズと一般アーカイヴズに違いがあるとは思わない、アーカイヴズの定義として、行政文書にこだわらない方がよいなど、さまざまな意見が述べられたが、総じて諸氏の現場では暗中模索と感じられた。筆者も、安澤秀一氏の「大学における資料保存施設の必要性」(『覺誌』創刊号 日本大学資料館設置準備室)を例として、日本大学に入学をしたいと願う志願者が、大学の情報入手し、入学試験に合格して日本大学の学生となり、4年間を経て卒業する。この学生から見た志願から卒業まで(卒業後は「校友」として)の各プロセスにおいて、職員、教員、そして学生、即ち、日本大学という組織体を作成する(毎年作成してきた)さまざまな書類、教職員の業務遂行過程において作成される資料(記録)が、大学アーカイヴズとなるのではないかということを発言した。これら膨大な各種の資料は、大学の公文書、私文書



等々さまざまであることはもちろんである。

筆者の現場は、大学史編纂過程で収集された資料、将来的な本学の歴史的資料の調査・収集・整理・保存といった、記録媒体が紙ベース資料のみならず、フィルムベースの資料、本学の興隆・発展に寄与した創立以来の関係者・校友の遺品や記念品、学校教育で使用した実験道具などといった、モノ資料も対象としている。モノ資料には、それに付随して作成された紙資料もあるはずで、つまりはアーカイヴズとなり得るであろう。そして、これらの膨大な資料から「大学アーカイヴズ」を選別し、大学の知的遺産として後世に伝えていくことが我々の仕事ということになる。

アーカイヴズが、一般的に「歴史的・文化的価値のある」「永久に保存されるべき史料」と認識されているとなれば、では、自分の大学にとって、歴史的・文化的に、永久に保存されるべき資料とはと逡巡するのも確かではある。しかし、「何が」大学アーカイヴズであるかを先に求めるのではなく、以上に挙げたような、創立以来の連綿たる大学活動の過程で作成されたさまざまな資料を丹念に拾い上げていくことで、次第に「大学アーカイヴズ」が構築されていくのではないかと…。しかし、これも本書に述べられていることか。

2006年7月13日(木) 研究会

討論会『日本の大学アーカイヴズ』を 読んで(第2回)」に参加して

武蔵野美術大学大学史史料室 倉持 佳代子

2006年7月13日、第51回東日本部会研究会として、「討論会『日本の大学アーカイヴズ』を読んで(第2回)」が行われた。私は第1回は残念ながら参加はできず、それどころか今回の研究会が初めての参加になる。大学アーカイヴズへ足を踏み入れたばかりで、これから一から学ばなければならない新米である私にとってこの討論会は、アーカイヴズについて知る最も大きな機会になった。

前回の研究記録によると、『日本の大学アーカイヴズ』を読んだ上での大学史資料の収集、整理、保存、活用に関わる広範な問題点について、十分に議論尽くせなかったことから、継続的に議論すべきだという意見で散会している。第2回ではそういった問題点について主に意見交換がなされた。

前回ナビゲーターとして本書について報告や問題提議をした神奈川大学大学資料編纂室の齊藤研也氏が、今回も資料をもとに前回までの流れを説明し、第2回から初参加の私もすんなりと内容に入ることができた。そして前回の報告を受け「研究対象領域の規定がよく理解できない」という質問を皮切りに、この研究会の研究対象が「大学の資料とはなにか。」「アーカイヴズとはなにか。」ということをしっかりとして押さえておくことが必要だという所からこの討論会は始まった。

まず「大学の資料とはなにか。」という点から、自分たちは何を集めているのかについてを意見交換し、その収集や管理についての問題点について討論された。

収集方法における議論では、「寄託」を受け入れられる体制がないことなどが問題としてあげられた。「廃棄」の基準についても議論に上り、活きる資料とそうでないものの選別方法について意見交換した。今日、各校は多様な資料と向き合い、選定方法に日々悩まされているが、「年史を作るにあたって使用するもの」という基準が基本となるべき



シンプルな形であるということを確認し合う論議になった。

「大学の資料とはなにか?」というテーマを元に、大学資料の収集方法や基準などについて話し合うにつれ、「大学アーカイヴズとはなにか?」という問いの答えが自ずと見えてきた。それは「大学アーカイヴズとはシステムである」という見解に自然とつながるものであった。「広い分野の史料をどう管理していくか。」というそのものが大学アーカイヴズであり、また継続的に維持できる資料を受け、保管していく組織を指すのではないか、ということである。そして「大学アーカイヴズ」として成り立たせるための「継続的に資料を受ける」という点については、「公開」していくことこそが資料収集につながる大きな一歩ではないかという意見で討論は締めくくった。

「公開していくことこそ資料収集への大きな一歩」これには非常に感銘を受け、今後我が校でも特に課題となるべきものであると認識した。

非常に有意義な討論会であり、私のような新参者には特に勉強になり、またこの討論会に際して読んだ『日本の大学アーカイヴズ』は素晴らしい入門書になった。これからもこのような討論会を続けていき、多様な意見を交換していくべきであると思う。

全国大学史資料協議会東日本部会
2006年度総会議事録（抄）

日時 2006年5月25日(木) 15時～17時
会場 武蔵野美術大学 12号館8階
第一会議室・談話室MAU
出席校 青山学院 神奈川大学 関東学院
慶應義塾 皇學館 國學院大學
国士館 駒澤大学 芝浦工業大学
自由学園 上智大学 成蹊学園
専修大学 大東文化大学 拓殖大学
中央大学 東海大学 東京経済大学
東京電機大学 東洋英和女学院
東洋大学 東洋大学校友会
日本女子大学 日本大学 法政大学
宮城学院 武蔵野美術大学
明治大学 立教女学院 立教大学
青柳小百合(株・ニチマイ)
工藤 元(株・ニチマイ)
中村 青志(東京経済大学)
西山 伸(京都大学大学文書館)
(機関会員30校、個人会員4名、出席者合計49名)

開会の辞 鈴木 秀幸氏

(明治大学史資料センター)

議長を選出 議長 益井 邦夫氏

(國學院大學校史資料課)

副議長 伊藤 昌弘氏

(成蹊学園史料館)

議題

1、2005年度事業報告・同決算報告について

昨年度事業報告につき、幹事会(事務局中央大学)より、配付資料「全国大学史資料協議会東日本部会2005年度事業報告書」にもとづいて事業報告があり、次いで、会計委員(慶應義塾)より配付資料「2005年度収支決算書」にもとづいて収支決算が報告された後、監査委員(日本大学)より決算が適正であった旨の監査報告が行われ、各報告の通り満

場一致で承認された。

2、2006年度事業計画案・同予算案について

本年度事業計画案につき、幹事会(事務局中央大学)より配付資料「全国大学史資料協議会東日本部会2006年度事業計画書(案)」にもとづいて説明があり、各事業の詳細が紹介された。続いて、会計委員(慶應義塾)より配付資料「2006年度予算書(案)」にもとづいて説明があり、原案通り満場一致で承認された。

3、東日本部会規約の改正について

「東日本部会規約」第11条改正の件につき、幹事会(事務局中央大学)より配付資料『「全国大学史資料協議会東日本部会規約」改正案』にもとづいて改正理由の説明があり、審議の結果、満場一致で承認された。この改正により、次年度以降の部会総会成立定数は、会員校(機関会員)の2分の1以上となった。

4、役員の変更について

議長より、役員任期満了にともなう改選を審議したいとの提起があり、部会規約にもとづいて立候補を募ったが、立候補がなかったため、旧幹事会提案の配付資料「全国大学史資料協議会東日本部会2006年度役員(案)」を検討し、原案通り満場一致で承認した。

5、その他

幹事会および出席会員からの議案提起はなかった。

閉会の辞 佐久間 保明氏

(武蔵野美術大学大学史史料委員会委員長)

美術資料図書館の展示見学

総会終了後、美術資料図書館主管 沢田雄一氏のご案内により、図書館所蔵の近代椅子コレクションの常設展示室を見学し、さらに、同図書館

別館民俗資料室沖田憲氏のご案内により、膨大な民俗資料の保存と活用状況を研修した。

情報交換会

総会終了後、情報交換会を開催した。鈴木秀幸氏（会長校明治大学）による開会の挨拶と東田全義氏（名誉会員）の乾杯の音頭により開会した情報交換会では、会員間の交流や情報交換が活発に行なわれた他、石田順二氏（武蔵野美術大学）による会場校挨拶や、恒例となった各校新任者の紹介・挨拶等もあり、親睦を深めつつ閉会を迎えた。閉会の挨拶は中村青志氏（東京経済大学）であった。なお、司会進行役は松崎彰氏（中央大学）が務めた。（出席者49名）

全国大学史資料協議会東日本部会
幹事会議事録（抄）

第70回 2006年3月22日（水）13時～15時

会 場 明治大学駿河台校舎大会館
8階第2会議室

出 席 神奈川大学 慶應義塾 國學院大學
中央大学 東京経済大学 東洋大学
日本大学 武蔵野美術大学
明治大学
西山 伸（京都大学大学文書館）

議 事 (1)2006年度の部会運営と活動について
*2006年度の幹事会・研究会開催数について審議し、幹事会を7回・研究会を5回、開催することとした。
*2006年度の会報『大学アーカイヴズ』発行について審議し、第35号と第36号の2冊を発行することとした。
*『研究叢書』第7号（東日本部会担当）の編集継続を確認した。
*本年4月に幹事会を開催し、活動方針の具体的な内容を審議することとした。
*2006年度の幹事会通常業務を概観し、

その担当を確認すると共に、負担が一部担当に集中しないよう配慮することを確認した。

*通常業務以外の特別事業は、事業毎にプロジェクト・チームを編成して事業を推進することとした。

*2006年度の特別事業として、「東日本部会20年史(仮称)」の編集、「全国大学史資料協議会ホームページ」の作成、「大学史展(仮称)」企画準備の3事業に着手することを決定した。
(2)2006年度部会総会について

*2006年度部会総会を5月下旬開催とし、武蔵野美術大学を会場として準備を急ぐこととした。

*2006年度の役員交代につき、継続可能な現役員を確認し、新役員補充を検討した上で、推薦案を作成した。

*会計校（慶應義塾・國學院大學）より、「2005年度収支決算表」案が提起され、各費目の会計処理について検討した。

*神奈川大学（池原治氏）より、「全国大学史資料協議会ホームページ企画メモ」が提案され、検討の結果、次回幹事会までにより具体的な企画案を立て、西日本部会にも通知することとした。

(3)その他

*特別委員会西山伸氏より、『日本の大学アーカイヴズ』1刷(1,000部)が完売したため、2刷(300部)を増刷したとの報告があった。また、増刷に伴う印税収入は部会収入とする件が了承された。

第71回 2006年4月27日（木）13時～17時

会 場 明治大学駿河台校舎研究棟
4階第3会議室

出 席 神奈川大学 慶應義塾 國學院大學
中央大学 東京経済大学 東洋大学
日本大学 武蔵野美術大学

明治大学

西山 伸 (京都大学大学文書館)

議 事 (1) 2006年度事業計画について

- *2006年度の研究会について審議し、全員参加型の討論会・見学会・『日本の大学アーカイヴズ』を利用した研究会を開催する方針を確認した。具体的な内容については、継続審議となった。
- *2006年度の特別事業中、「全国大学史資料協議会ホームページ」の作成について事務局より報告があり、過日、神奈川大学(池原治氏)より提案された企画案を、西日本部会幹事会へ送付して意見をもとめたところ、「経費がかかりすぎる」・「大学へのリンクを主とする簡易なホームページを考えている」の2点につき返答があったとのことであった。
- *西日本部会の意向を踏まえて「全国大学史資料協議会ホームページ」作成について検討した結果、東日本部会としては、リンク集のみでは公式ホームページとしての役割を果たせないと考え、(1)協議会の意義や組織を紹介するトップ頁、(2)研究会・幹事会等の案内や記録を集めた更新型コンテンツ、(3)各大学や関連機関へのリンク集、の3点が最低限必要だと結論にいたった。
- *上記の結論を、西日本部会幹事会へ伝えて両部会の意見を調整することとし、あわせて、維持・管理費用を削減するための方策を再度検討する必要がある点を確認し、継続審議とした。
- *2006年度の特別事業中、「東日本部会20年史(仮称)」の編集については、部会総会終了後、早期に着手すべきであるとの意見が出され、了承された。
- *西日本部会より、2006年度全国研

究会の企画について連絡があり、(1)全国研究会報告者選出の件、(2)協議会の写真展示会を企画しているので記録写真提供の件、の2点につき依頼があった。

(2)2006年度部会総会の運営について

- *事務局より配信された2006年度部会総会用資料案を検討し、修正・確定した。
- *会計校より配布された2006年度部会総会用会計資料案を検討し、修正・確定した。
- *2006年度役員校推薦案を修正・確定した。
- (3)その他
- *南山大学大学史料室の協議会入会を本年4月1日付けで承認する。
- *東洋大学校友会の協議会入会を本年4月1日付けで承認し、名簿上は、東洋大学井上円了記念学術センターとは別に、機関会員として独立して記載することとした。
- *中村青志氏の協議会入会(個人会員)を本年4月1日付けで承認する。

第72回 2006年5月25日(木) 14時~15時

会 場 武蔵野美術大学12号館
8階第一会議室

出 席 神奈川大学 慶應義塾 國學院大学
中央大学 東海大学 東京経済大学
東洋大学校友会 日本大学
武蔵野美術大学 明治大学
中村青志(東京経済大学)
西山 伸(京都大学大学文書館)

議 事 (1)2006年度部会総会の運営について

- *2006年度部会総会の進行と担当を確認し、会場を設営した。

(2)その他

- *2006年7月開催予定の第51回研究会について審議し、第50回研究会(同年3月開催)での討議をさらに深めるため、再度『日本の大学アーカイ

ヴズ』を合評する討論会を開催することとした。

- * 『記録と史料』第16号（全史料協）に掲載された『日本の大学アーカイヴズ』の書評（西山伸氏執筆）につき、書名誤植の件他を審議し、善処を求めることを確認した。
- * 東海大学加瀬大氏より、『研究叢書』第7号の編集状況につき報告があり、大会討論の原稿については、幹事会の役員全員が校正の上、総括を加瀬氏に一任することを確認した。
- * 事務局より、全国大会の準備状況について報告があり、西日本部会の企画案が完成し次第、正式な連絡や依頼が届く予定である点、日程については、会場校の都合で設定されている点等の説明があった。
- * 事務局より、大学史資料協議会ホームページ作成の件につき「池原私案」が提案されたとの報告があり、同案の検討を進めることが確認された。また、西日本部会幹事会の意向についても、具体的な計画案をまとめてもらってはどうかとの意見が出された。
- * 芝浦工業大学広報課（80周年史編纂担当）の協議会入会を本年4月1日付けで承認する。
- * 名古屋大学大学文書資料室の協議会入会を本年4月22日付けで承認する。
- * 堀田慎一郎氏（個人会員）の協議会退会を本年4月22日付けで承認する。

全国大学史資料協議会東日本部会 研究会記録（抄）

第49回 2006年1月26日（木）15時～17時
 場 所 埼玉県立文書館3F研修室
 出 席 青山学院 神奈川大学 関東学院
 慶應義塾 國學院大學 国士館
 駒澤大学 上智大学 成蹊大学

中央大学 東海大学 東京経済大学
 東京女子医科大学 東京農業大学
 東洋英和女学院 東洋大学
 日本大学 武蔵野美術大学
 明治大学 東田全義（名誉会員）
 青柳小百合（株・ニチマイ）
 西山 伸（京都大学大学文書館）
 （以上35人）

挨拶・報告 重田 正夫 氏
 （埼玉県立文書館副館長）
 「埼玉県立文書館の概要と活動」
 ミニ展示 「埼玉県立文書館所蔵の
 大学史関係文書展」

概 要 埼玉県立文書館は、1969年に県立図書館内に設置されたことから始まり、1983年には文書館独立官舎が現在地に設立されている。全国の文書館の中でも、歴史が古く、また史料保存運動の中心にあつて、非常に熱心な運営活動を行っていることで定評があり、当会でも、その見学を待ち望んでいた。当日は、まず3階研修室で、重田正夫副館長から、同館の沿革、収蔵文書の概要、組織と仕事の流れ（受入・整理・保存・閲覧・利用）についての詳細な説明を受けた。その後、2班に分かれて、館内諸施設の見学を行った。地図閲覧室、地図収蔵庫、古文書保存庫、行政文書保存庫、参考図書室・閲覧室、貴重書庫、フィルム・テープ保存庫、展示コーナー・展示室、製本室などを巡覧したが、歴史と実績がある同館にふさわしく、いずれも充実した内容に感銘を受けた。展示室では、平成17年度第2回収蔵文書展として「親子で学ぶ埼玉近現代の災害一被害のようすと県のはたらき」の展示が実施されていたが、文書が持つ堅苦しさを取り除き、写真や地図、パネルなどを駆使し、分かりやすさや親しみやすさを実現する工夫がな

されており、好感が持てた。専門性にに基づいた高度な史料収集活動と地域住民に顔を向けた展示・公開活動が両立しているところに埼玉県立文書館の最大の特徴を感じた。施設巡覧後、再び研修室に戻り、質疑応答の時間をもち、閉会となった。

(中村 青志)

第50回 2006年3月22日(水)15時～17時30分
 場所 明治大学駿河台校舎大会館
 8階第2会議室
 出席 青山学院 神奈川大学 慶應義塾
 國學院大學 自由学園 上智大学
 成蹊大学 中央大学 東京経済大学
 東洋英和女学院 東洋大学
 獨協学園 日本女子大学 日本大学
 武蔵野美術大学 明治大学
 東田 全義 (名誉会員)
 秋山 俱子
 (元日本女子大学成瀬記念館)
 西山 伸(京都大学大学文書館)
 (以上31人)

会長校挨拶 鈴木 秀幸氏
 (明治大学大学史資料センター)

司会 松崎 彰氏
 (中央大学大学史編纂課)

報告 齊藤 研也氏
 (神奈川大学大学資料編纂室)
 『『日本の大学アーカイヴズ』を読んで』

概要 刊行後間もない全国大学史資料協議会編『日本の大学アーカイヴズ』(京都大学学術出版会、2005年12月刊)をとりあげ、合評する形式をとった。同書は、全7章から構成される第1部「大学アーカイヴズ論」、31校の大学アーカイヴズの実情を紹介した第2部「大学アーカイヴズのいま」、84校の大学アーカイヴズの基本情報を収録した第3部「基本データ」から構成される。まず、ナビゲーターの齊藤研也氏(神奈川大学)が、

大学アーカイヴズ論を構成する第1部各章の論述内容を詳しく紹介したうえで、全体に関わるコメントとして、大学アーカイヴズにおける「普遍と特殊」の問題を提示した。齊藤氏は、多様な資料を扱い「カオス」と指摘される状況が大学アーカイヴズの特異性であるにとらえるとともに、それでは、大学アーカイヴズの中の普遍性は何であるかを問題にした。

この齊藤氏の問題提起や同書編集委員長の西山伸氏(京都大学)からの編集方針の補足説明を受けて、参加者からの討議が開始され、一般のアーカイヴズと大学アーカイヴズの間にはたして相違があるのか、大学アーカイヴズの収集資料の対象が行政文書中心でよいのかなどの論点をはじめとして活発な議論がなされた。

本書では、大学史資料の収集・整理・保存・活用に関わる広範な問題点が取り上げられており、当日の限られた時間の中では、まだ十分に議論を尽くせなかったという印象も否めない。そこで、協議会の活動が築いた財産である同書の内容を今後も継続的に議論すべきだという意見で一致して、当日は散会となった。

(中村 青志)

会報編集

会報編集担当

【神奈川大学・大学資料編纂室】

〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1

☎ 045-481-5661

事務局

【中央大学・大学史編纂課】

〒192-0393 八王子市東中野742-1

☎ 0426-74-2132

【武蔵野美術大学・大学史史料室】

〒187-8505 小平市小川町1-736

☎ 042-342-6091